

# 観梅詩碑

あめやんで林なおうるおう 煙さえぎって湖なかば明らかなり

雨歇林猶溼 烟遮湖半明

梅花の香り地に満ち

春水の緑 城に通ず

梅花香満地 春水緑通城

百里けんこうのあと

千秋志士の名

百里賢侯躅 千秋志士名

亭台は爽がいによって

えんちょう情にたえず

亭台依爽塏 延眺不勝情

常磐公園作 <sup>きのとう</sup> 乙卯二月 <sup>せきたい</sup> 石埭老人永阪周

MONUMENT OF ENJOIMENT  
IN PLUM-BLOSSOM  
AND FRAGRANCE  
(an outline)

After the rain, the grove is still moistend  
The mist lies over the lake,  
only the central part is still clear.  
The fragrance of plum-blossoms fills the earth,  
The water of emerald green runs into the Castle  
The glorious achievements of Lords and  
the great names of patriots  
still remain on the hill,  
The view from this high captivates hearts.  
(英文案内板より)

造園時の千波湖は、現在の約4倍の広さを有し、水戸城まで通じていました。千波湖は那珂川と共に水戸城の「堀」としての性格が強く、この碑の近くまで水が押し寄せていました。当時の情景を省みる時、この詩は実に味わい深いものがあります。水戸城から好文亭までは舟も利用されていたようです。

乙卯・・きのとう（1915年・大正4年）

60年で一回りする干支の一つで52番目にあたります。

次の乙卯は2035年です。

石埭(せきたい)老人永阪周・・・医師で書家。